

令和3年11月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,506	8,814	4,460	4,354	13	4
2 千 石	3,916	6,648	3,412	3,236	0	3
3 内 山	5,587	7,926	4,227	3,699	△ 12	△ 24
4 大 和	3,427	6,683	3,273	3,410	3	△ 2
5 上 野	7,385	15,479	7,617	7,862	3	△ 9
6 高 見	7,280	13,281	6,348	6,933	3	△ 17
7 春 岡	6,817	10,999	5,757	5,242	2	△ 3
8 田 代	11,202	21,868	10,405	11,463	△ 6	△ 18
9 東 山	10,317	19,332	9,450	9,882	△ 5	△ 20
10 見 付	4,382	8,260	4,137	4,123	7	32
11 星 ケ 丘	3,454	6,791	3,038	3,753	6	14
12 自 由 ケ 丘	3,582	7,293	3,303	3,990	3	2
13 富 士 見 台	6,469	15,277	6,965	8,312	29	48
14 宮 根	3,771	8,101	3,750	4,351	△ 4	△ 5
15 千 代 田 橋	3,689	8,326	3,945	4,381	△ 2	△ 9
千 種 区 計	86,784	165,078	80,087	84,991	40	△ 4
R2.11.1	88,261	165,840	80,996	84,844	0	△ 13
対 前 年 比	△ 1477	△ 762	△ 909	147	40	9
名 古 屋 市	1,125,372	2,326,664	1,142,260	1,184,404	84	△ 482
愛 知 県 (R3.10.1)	3,248,149	7,519,785	3,746,102	3,773,683	△ 721	△ 2,629

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	86	132	△ 46	884	842	42

【参考】

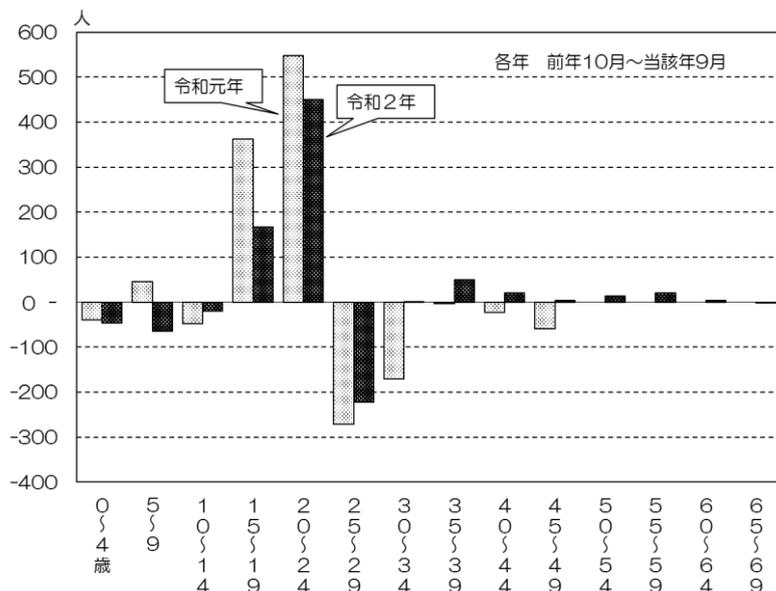
国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

注1) 令和2年度の国勢調査の世帯数と人口は、確定値が出ていないため千種区人口は未掲載。
 注2) 世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果の本市独自集計速報値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

千種区の5歳階級別社会増減数の推移

今回は愛知県人口動向調査（名古屋市分）に基づいて、本区の年齢5歳階級別社会増減数（転入数－転出数）をみていきます。

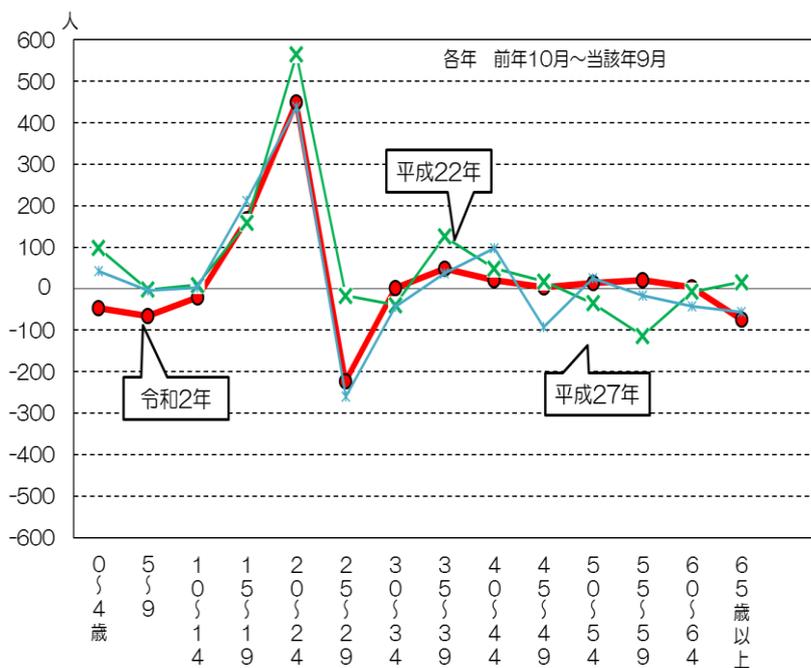
図1: 年齢5歳階級別社会増減数（令和元年と令和2年の比較）



令和元年と令和2年の年齢5歳階級別社会増減数（図1）を見てみると、いずれも15歳～19歳、20歳～24歳で社会増（本区への転入超過）がみられます。千種区は大学が多く、在学中の年齢である15～19歳、20～24歳の範囲で本区への転入が多くなっていますが、令和元年よりも転入数は減少しています。

25～29歳では就職のために区外へ転出する傾向がありますが、県外移動自粛の影響か、令和2年は30代以降の転出はほとんど見られません。

図2: 年齢5歳階級別社会増減数の推移



平成22年から令和2年までの5年ごとの年齢5歳階級別社会増減数の推移（図2）をみてみると、15～24歳に本区に転入し、25～29歳で転出するという傾向に大きな変化はみられません。20～24歳の社会増減数は、平成21年から令和元年にかけて10年間、各年500人以上の社会増傾向にあります。一方で、25～29歳の社会減傾向は令和2年に大きくなっています。

また、その他の年代について、10年間を比較すると、社会増減数は30代以降についておおむね減少傾向にあります。